MITSUBISHI

三菱電機ビル空調管理システム
三菱電機スリムエアコン用共通

MAスムースリモコン　PAR−22MA
MAデラックスリモコン　PAC−YT35ST

据付工事説明書　**販売店・工事店さま用**

この説明書は三菱電機ビル空調管理システム、直膨式マルチエアコン室内ユニット（Cタイプ以降）用と三菱電機スリムパッケージエアコン用共通のMAリモコンの据付工事についてのみ記載しております。よくお読みのうえ、正しく据付けてください。なお空調機本体への配線、および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付説明書をご覧下さい。本説明書につきましては、据付工事完了後にお客様にお渡しください。

1　安全のために必ず守ること

●据付工事はこの「安全のために必ず守ること」をお読みのうえ、確実に行なって下さい。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結び付く可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつくもの

●お読みになったあとは、室内ユニットに添付された取扱説明書などとともに、お使いになる方に必ず本書をお渡し下さい。
●お使いになる方は、取扱説明書などとともに、いつでも見られる所に保管し、移設・修理の時は工事される方に、又お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡し下さい。

⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
お客様自身で据付工事をされ不備があると、感電、火災等の原因になります。

据付けは、充分に耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、本機の落下により、ケガの原因になります。

配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全の場合は、発熱、火災等の原因になります。

改造、修理は絶対しない。
改造したり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。修理はお買上げの販売店にご相談ください。

据付工事は、この据付工事説明書に従い確実に行なう。
据付けに不備があると、感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電機移設に関する技術基準」、「内線規定」、及び本説明書に従い施工する。
電気回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移設はしない。
据付工事に不備があると感電、火災等の原因になります。お買上げの販売店または専門業者にご依頼下さい。

⚠注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ据付けない。
万一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると発火、爆発の原因になることがあります。

特殊環境には使用しない。
油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

浴室など大量の湯気が発生する所には据付けない。
水のかかる場所、壁が結露するような場所は避けてください。感電、故障の原因になります。

酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等頻繁に使用するところへは据付けない。
感電、故障の原因になります。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なう。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器等の影響による本機の誤動作や故障の原因になったり、本機側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になることがあります。

配線は張力がかからないように配線工事を行なう。
断線したり、発熱、火災の原因になります。

リモコンケーブル引き込み口を、パテで確実にシールする。
露、水、ゴキブリ、虫等の侵入のため、感電、故障の原因となることがあります。

本機を据付ける付近の温度が40℃以上、0℃以下になる場所、または直射日光のあたる場所には据付けない。
変形、故障の原因となることがあります。

AC100VやAC200Vは絶対に印加しない。リモコンへの印加電圧は最大で12Vです。破壊、発火、火災の原因となります。

配線は電流容量にあった規格品の電線を使用すること。
漏電や発熱、火災の原因になることがあります。

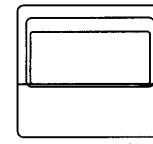
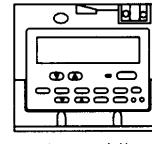
濡れた手でボタンを操作しない。
感電、故障の原因となることがあります。

本機を水洗いしない。
感電、故障の原因になることがあります。

ボタンを先のとがった物で押さない。
火災、感電の原因となります。

2　部品確認

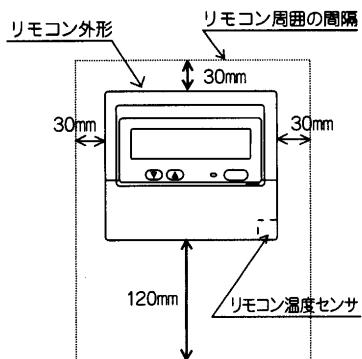
箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますのでご確認下さい。
1. リモコン（カバー、本体）……………………………1
2. 十字穴付きナベネジ　M4×30 ………………………2
3. 木ネジ　M4.1×16（壁に直接据付ける時使用）…………2

※1 リモコンケーブルは別売です。現地で調達するかPAC−YT81HC（10m）、PAC−YT82HC（20m）をお求めください。
※2 PAC−YT30STは接続できません。

3 据付方法

1. リモコン（スイッチボックス）の据付位置を決めてください。

ただし、下記の事項を必ず守ってください。

(1) 温度センサはリモコンと室内ユニットの両方についていますが、リモコンの温度センサを使用する場合、主リモコンに設定したリモコンにて室温を検知します。主リモコンは部屋の平均的な温度を検知できる場所で、直射日光やエアコンの吹きだし空気が直接当たらないなど熱源の影響を与えない所に据付けてください。

> **⚠注意** 室温と壁温の差が大きいところ（時）には、設置壁面温度の影響を受けた設置壁面表面付近温度を測定するため室温と差が出る可能性があります。以下のような設置状況の場合は室内ユニットの温度センサ使用を推奨いたします。
> ・室内の気流分布が悪く、設置壁面まで空気が到達しにくい場合
> ・設置壁面の温度と室温の差が大きい場合
> ・設置壁面の背面が外気に接している場合
> また、急激な温度変化がある場合、温度検知の追従性は悪くなります。

設置壁面の影響を受けやすい場所に、かつリモコンの温度センサを使用する場合、別売のリモコン用スペーサ（形名:PAC−YT83RS）を使用ください。

（リモコンの主／従設定は(6 機能選択)（1）リモコン［4］−3.（1）を、温度センサの設定についてはフリープランシステム室内ユニットの据付説明書、スリムエアコンでは(6 機能選択)(2)ユニット機能選択をご覧ください）

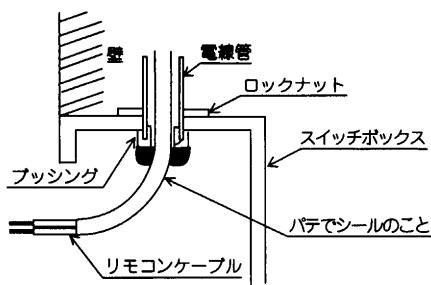
(2) スイッチボックス、壁どちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。

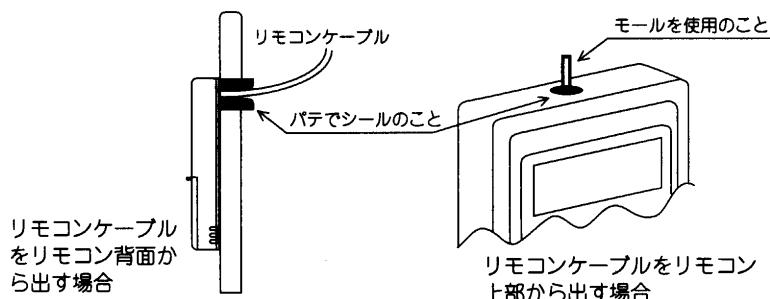
> **お願い** リモコンの温度センサの付近に配線がないことを確認してください。
> 配線などある場合、リモコンにて正確な室温を検知できません。

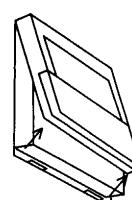
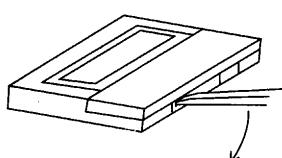
(3) 下記の部品は現地にて調達してください。
- 2個用スイッチボックス（JIS C8340）
- 薄鋼電線管（JIS C8305）
- ロックナット、ブッシング（JIS C8330）
- モール（JIS C8425）

2. 露、水滴、ゴキブリ、虫などの侵入防止のためリモコンケーブル引込口をパテで確実にシールしてください。

スイッチボックスを使用する場合

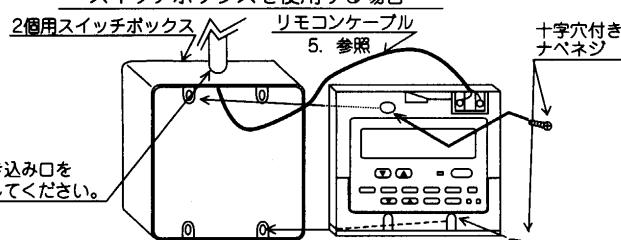
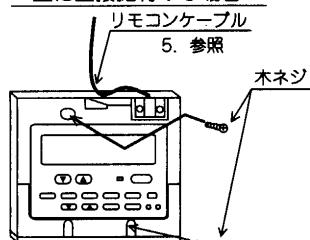
・スイッチボックスに据付けた場合はスイッチボックスと電線管の結合部をパテでシールしてください。

壁に直接据付ける場合

・壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合（リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合）その穴をパテでシールしてください。
・上カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを通す場合は上カバーの切り取った部分を同様にシールしてください。
・リモコンケーブルを壁面で引回す場合はモールを使用して下さい。

3. リモコン本体のカバーを外します。

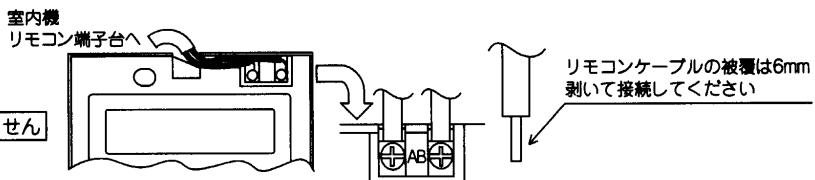
・マイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします。

> **⚠注意** ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。
> 爪がこわれてしまうことがあります。

4. 下ケースをスイッチボックスまたは壁に据付けます。

スイッチボックスを使用する場合

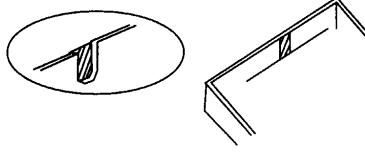
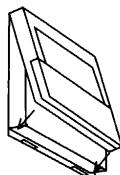
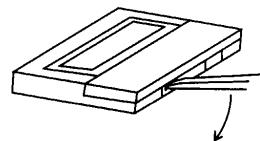
2個用スイッチボックス
リモコンケーブル
5. 参照
十字穴付きナベネジ
リモコンケーブル引き込み口をパテで確実にシールしてください。
2. 参照

壁に直接据付ける場合

> **⚠注意** ネジを締めすぎないでください。下ケースの変形、割れの原因になります。

> **お願い** ・据付け面は平らな所をお選びください。
> ・スイッチボックスまたは壁への据付けは必ず2ヶ所以上を固定してください。
> ・再度、壁へ取付けの際は、モリーアンカーなどを使用し、確実に固定してください。

5. リモコンケーブルを本体の端子台に接続します。

⚠注意	リモコンの端子台への接続に圧着端子は使用しないでください。基板と接触し故障の原因やカバーと接触し、カバー破損の原因になります。

⚠注意	リモコンケーブルの切屑などがリモコン内部に入らないようにしてください。感電、故障の原因となることがあります。

6. 壁などに直接リモコンを据付ける場合の配線穴（露出配線の場合）

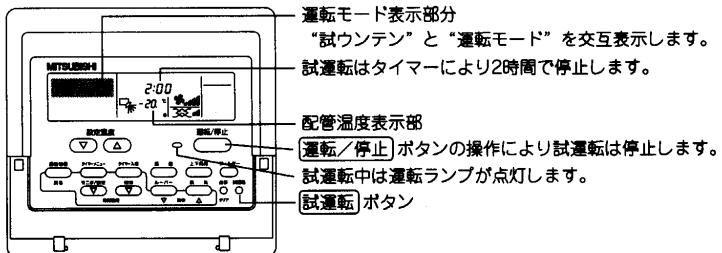
・カバーの内側薄肉部（斜線部）をナイフ・ニッパーなどで切り取ってください。
・端子台に接続したリモコンコードをこの部分から出します。

7. 本体にカバーをはめ込みます。

カバーを外す場合は右図のように
マイナスドライバーを爪部にはめ
込み矢印で示す方向に動かします

上部爪（2ヶ所）を先に掛けて、上図のように本体にはめ込みます。

⚠注意	"パチッ"と音がするまで確実にはめ込んでください。 確実にはまっていない場合、落下の恐れがあります。

⚠注意	ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。 爪がこわれてしまうことがあります。

お願い	操作部には保護シートが貼ってあります。ご使用の際は、保護シートをはがしてください。

4 試運転

1. 試運転を行なう前に必ず室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。
2. [試運転]ボタンを3秒以内に2回押すと、試運転が行なえます。
3. [運転／停止]ボタンの操作により試運転は停止します。
4. 試運転によって異常が発生した場合については室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。

5 換気設定

フリープラン機種でロスナイとの連動運転を行う設定が必要な場合のみ設定してください。

（スリムエアコンでは、設定できません。）

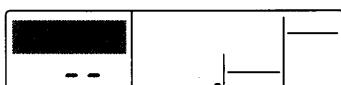
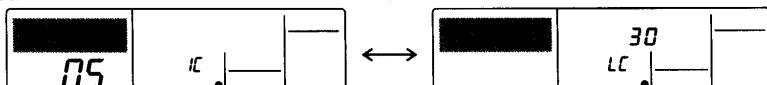
※上位コントローラが接続される場合は、上位コントローラより設定してください。

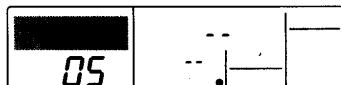
お願い	ロスナイと連動設定させる場合、必ずグループ内全ての室内ユニットアドレスとロスナイのアドレスを連動設定してください。

リモコンが接続されている室内ユニットのロスナイ登録、登録した内容の検索、登録抹消設定を行う場合この操作を行います。
ここでは、室内ユニットアドレス05、ロスナイアドレス30の場合を例に説明します。

［操作手順］

①リモコンの[運転／停止]ボタンで空調機を停止の状態にします。
　このとき、以下の停止表示でなければ、②の操作ができません。

②[フィルター]と[ルーバー]ボタンを同時に2秒押ししますと下図の表示になり、現在リモコンが接続されている室内機が登録しているロスナイの検索を行います。

③登録検索結果
・室内機のアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示します。

室内機アドレスと室内機表示　　ロスナイアドレス表示とロスナイ表示

・ロスナイが登録設定されていない場合

④ここで、何も設定する必要がなければ、[フィルター]と[ルーバー]ボタンを同時に2秒押しし、終了します。
　新たにロスナイを登録する必要があれば、1. [登録操作]へ
　ロスナイの検索をしたい場合は2. [検索操作]へ
　いまの登録されているロスナイを抹消する場合は、3. [抹消操作]へ

1. 登録操作

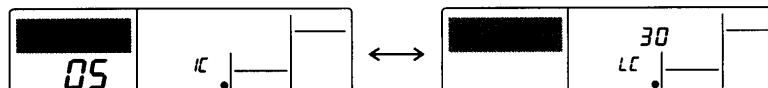
⑤ロスナイと登録設定したいリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度▽、△を操作し、設定します。(01～50)

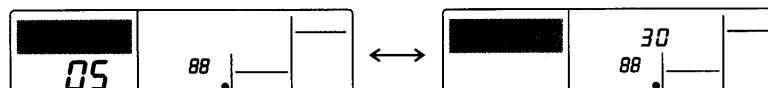
⑥登録設定したいロスナイのアドレスを時刻設定（または時間設定）▽、△ボタンを操作し設定します。(01～50)

室内機アドレス、ロスナイアドレス

⑦試運転ボタンを押し、設定した室内機アドレスとロスナイアドレスの登録を行います。

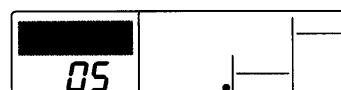
登録の完了表示

室内機のアドレスと「IC」、登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。

登録エラー表示

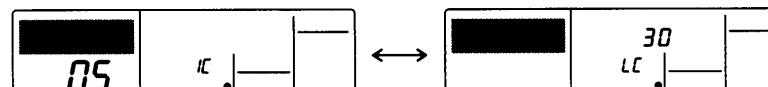
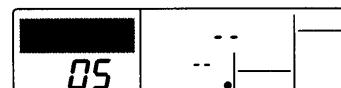
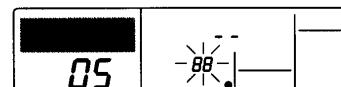
登録がうまく行かなかったとき室内機のアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示

登録設定した室内機またはロスナイが存在しないので登録ができません。

登録設定した室内機に別のロスナイが登録済みなので登録ができません。

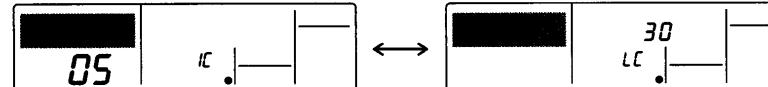
2. 検索操作

⑧ロスナイの検索をしたいリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度▽、△ボタンを操作し、設定します。(01～50まで)

⑨タイマーメニューボタンを押し設定した室内機アドレスに登録されたロスナイアドレスの検索を行います。

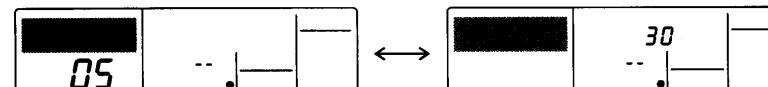
検索の完了表示（ロスナイ接続有りのとき）

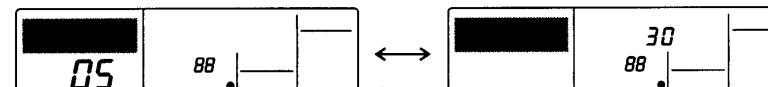
室内機のアドレスと「IC」登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。

検索の完了表示（ロスナイ接続なしのとき）

指定した室内機のアドレスが存在しません。

3. 抹消操作

リモコンが接続されている室内機とロスナイの登録設定を抹消する場合に使用します。

⑩抹消させたいロスナイの検索（2. 検索操作参照）を行い、室内機とロスナイの検索結果表示状態にします。

⑪タイマー入切ボタンを2度押しし、設定した室内機アドレスに登録されたロスナイアドレスの登録の削除を行います。

抹消の完了表示

室内機のアドレスと「--」、登録設定されたロスナイのアドレスと「--」を交互表示します。

抹消エラー表示

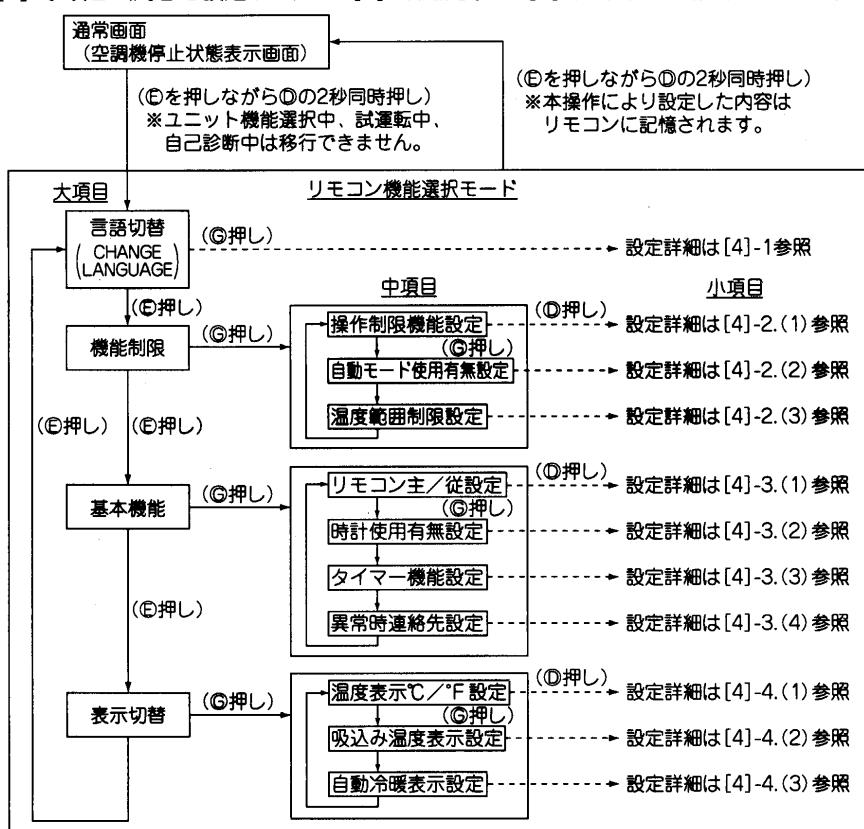
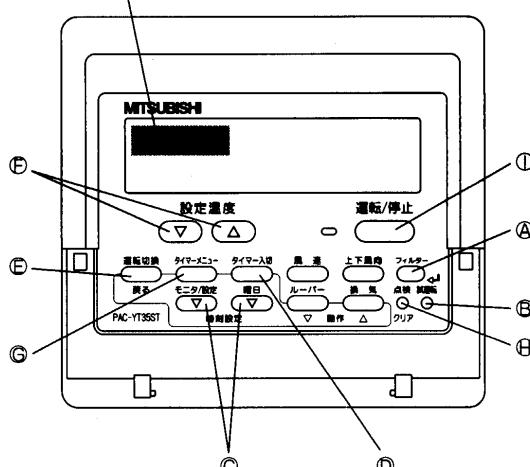
抹消がうまく行かなかったとき

6 機能選択

(1) リモコン機能選択

リモコン機能選択モードでは下記のリモコンの機能を設定変更できます。必要に応じ、設定変更をしてください。

大項目	中項目	小項目（設定内容）
1. 言語切替 (CHANGE LANGUAGE)	表示する言語の設定を行います。	・多言語表示ができます。
2. 機能制限	(1) 操作制限機能設定(操作ロック)	・操作制限（操作ロック）の範囲を設定します。
	(2) 自動モード使用設定	・運転モードの「自動」使用有無を設定にします。
	(3) 温度範囲制限設定	・温度調節範囲（上限・下限値）を設定します。
3. 基本機能	(1) リモコン主／従設定	・主リモコン、従リモコンを切替えます。 ※1グループ2台接続時どちらか一方を『従』設定にします。
	(2) 時計使用設定	・時計機能の使用有無を設定します。 ※PAR-22MAでは本設定はできません。
	(3) タイマー機能設定	・使用するタイマーの種類を設定します。
	(4) 異常時の連絡先設定	・異常発生時に連絡先の電話番号を表示させることができます。 ・電話番号の設定をします。
4. 表示切替	(1) 温度表示℃／°F 設定	・表示する温度単位（℃／°F）を設定します。
	(2) 吸込み温度表示設定	・室内（吸込み）温度表示の有無を設定にします。
	(3) 自動冷暖表示設定	・自動モード運転時の「冷房」「暖房」表示有無を設定します。

[機能選択の流れ]

[1] 空調機を停止状態にして、リモコン機能選択モードに移行する→ [2] 大項目を選択する→ [3] 中項目を選択する→
[4] 小項目（内容を設定する）→ [5] 設定完了→ [6] 通常画面に移行する（終了）

お知らせ
リモコン機能選択から通常画面に移行すると、タイマー運転は停止となります。

[設定詳細]

[4] -1. 言語切替設定

本設定により、ドット表示部に表示する言語を設定します。
・タイマーメニューボタンを押して下記内容を切替えます。
①日本語(JP)、②英語(GB)、③ドイツ語(D)、④スペイン語(E)、
⑤ロシア語(RU)、⑥イタリア語(I)、⑦中国語(CH)、⑧フランス語(F)

[4] -2. 機能制限設定

(1) 操作制限機能設定（操作ロック）

・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①no1 ：運転／停止ボタン以外操作ロック設定となります。
②no2 ：全ボタン操作ロック設定となります。
③OFF(初期設定値)：操作ロック設定なしとなります。
※通常画面にて操作ロックを実行するには、上記設定後に通常画面にて実行操作（フィルターボタンと運転／停止ボタン同時2秒押し）が必要です。

(2) 自動モード使用設定

運転モード自動有りユニットに接続されている場合、下記内容の設定を行うことができます。
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①ON(初期設定値)：運転モード選択操作時に自動モードを表示します。
②OFF ：運転モード選択操作時に自動モードを表示しません。

(3) 温度範囲制限設定

設定内容変更後は、変更した範囲内で温度変更が可能となります。
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①冷房モード ：冷房·ドライモードでの設定温度範囲を変更します。
②暖房モード ：暖房モードでの設定温度範囲を変更できます。
③自動モード ：自動モードでの設定温度範囲を変更できます。
④OFF(初期設定値)：温度範囲制限は実行されません。
※OFF以外が設定された場合、冷房、暖房、自動モードの温度制限設定が同時に実行されます。ただし、設定温度範囲が変更されていなければ制限は実行されません。
・設定温度▽ボタン、または設定温度△ボタンを押す毎に設定値がアップ、ダウンします。
・風速ボタンを押して上限値設定、下限値設定を選択を切替えます。選択された設定内容は点滅表示しており､この温度値を設定します。
・設定範囲

冷房・ドライモード：下限値：19℃～30℃
　上限値：30℃～19℃
暖房モード ：下限値：17℃～28℃
　上限値：28℃～17℃
自動モード ：上限値：19℃～28℃
　下限値：28℃～19℃

※設定範囲は接続されるユニット（スリム機種、フリープラン機種、中温機種等）により異なります。

[4] -3. 基本機能設定
(1) リモコン主／従設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①主：主設定となります。
②従：従設定になります。
(2) 時計使用設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①ON ：時計機能が使用可能となります。
②OFF：時計機能が使用不可となります。
(3) タイマー機能設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます（いずれか一つを選択）。
①タイマー週間（初期設定値_MAデラックス時）:週間タイマー使用可能となります。
②タイマーケシワスレ ボウシ :消し忘れタイマー使用可能となります。
③タイマーカンイ（初期設定値_MAスムース時）:簡易タイマー使用可能となります。
④タイマー無効 :タイマー未使用設定となります。
※時計使用有無設定がOFF設定時は、“タイマー週間”は選択できません。
※PAR-22MAでは週間タイマーは選択できません。
(4) 異常時連絡先設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①CALL-OFF ：異常中に設定した電話番号は表示されません。
②CALL-0120 *** **** ：異常中に設定した電話番号を表示します。
CALL-_ ：左記表示時、電話番号を設定します。

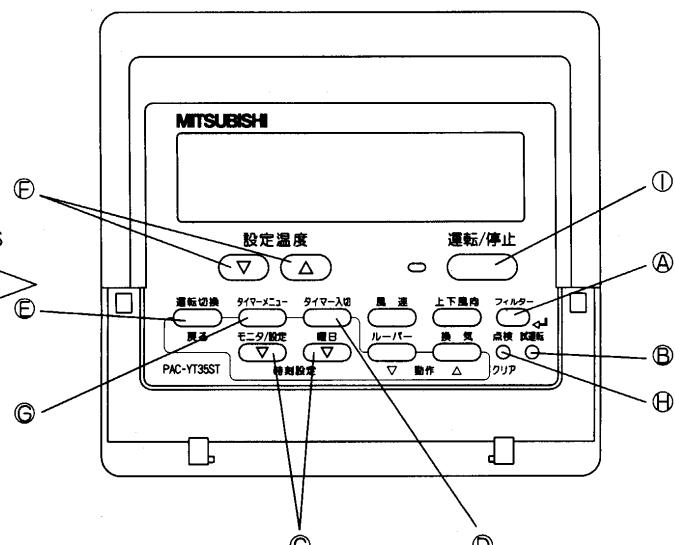
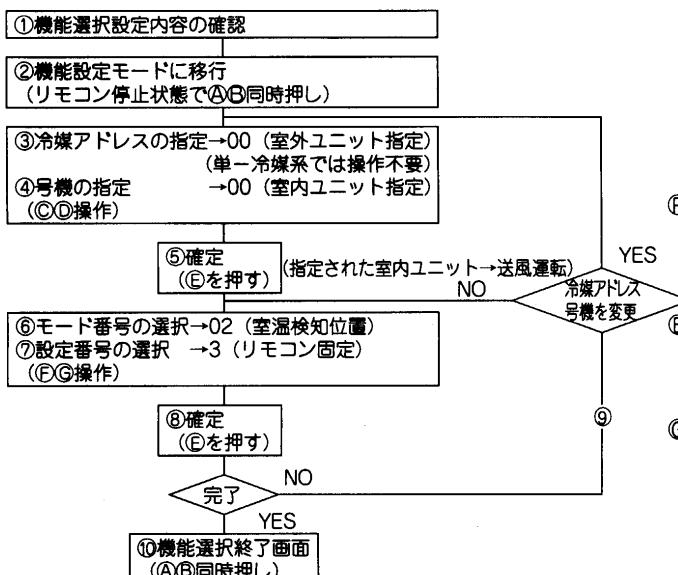
・電話番号設定方法
②設定時に下記設定操作により電話番号を設定します。
点滅しているカーソル（_）を移動して、数字を設定してします。設定温度△（▽）ボタンを押してカーソルを右（左）に移動させます。時刻設定△ボタンまたは時刻設定▽ボタンを押して、番号を設定します。

[4] -4. 表示切替設定
(1) 温度表示℃／°F設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
① ℃ ：温度表示単位をセ氏表示にします。
② °F ：温度表示単位を華氏表示にします。
(2) 吸込み温度表示設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①ON ：吸込温度を表示します。
②OFF：吸込温度は表示されません。
(3) 自動冷暖表示設定
・タイマー入切ボタンを押して下記内容を切替えます。
①ON ：自動モード運転時、「自動冷房」または「自動暖房」表示のどちらかが表示されます。
②OFF：自動モード運転時、「自動」のみが表示されます。

(2) ユニット機能選択 スリムエアコンで変更が必要な場合のみ設定してください。（フリープランでは、設定できません。）
リモコンより必要に応じて各ユニットの機能を設定します。各ユニットの機能選択はリモコンからのみ設定可能です。
表1より機能選択が必要な項目を選択してください。
表1. 機能選択内容（各ユニットの出荷設定内容、モードについての詳細はユニットの据付工事説明書をご覧ください。）

モード	設定内容	モード番号	設定番号	チェック欄	対象号機
停電自動復帰	無し	01	1		00号機 全室内ユニットに対し設定を行なう項目です。
	有り（電源回復後、約4分待機が必要です。）	01	2		
室温検知位置	同時運転室内ユニット平均	02	1		
	リモコン接続室内ユニット固定	02	2		
	リモコン内蔵センサ	02	3		
ロスナイ接続	接続無し	03	1		
	接続有り（室内ユニット外気取入無し）	03	2		
	接続有り（室内ユニット外気取入有り）	03	3		
自動運転モード	省エネサイクル自動有効	05	1		
	省エネサイクル自動無効	05	2		
フィルターサイン	100時間	07	1		01〜04号機 又はＡＬ 各室内ユニットに対し設定を行なう項目です。
	2500時間	07	2		
	フィルターサイン表示無し	07	3		
風量	静音	08	1		
	標準	08	2		
	高天井	08	3		
吹出し口数	4方向	09	1		
	3方向	09	2		
オプション組込み	無し	10	1		
	有り	10	2		
上下ベーン設定	ベーン無し	11	1		
	ベーン有り第1設定	11	2		
	ベーン有り第2設定	11	3		
省エネ暖気流	無効	12	1		
	有効	12	2		
加湿器組込み	無し	13	1		
	有り	13	2		

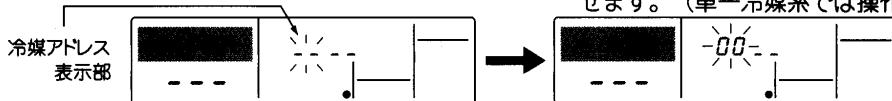
お願い 工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入して確認ください。

[機能選択の流れ]
まずは機能選択の流れをつかんでください。ここでは表1の“室温検知位置”の設定を例に説明します。
（実際の操作については［操作手順］①〜⑩をご覧ください）

[操作手順] 変更が必要な場合のみ設定してください。

①機能選択の各モードの設定内容を確認してください。機能選択にて各モードの設定内容を変更した場合、そのモードの機能が変わります。
②〜⑦に従い現在の全設定内容を確認し、表1のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。なお、工場出荷時の設定については室内ユニットの据付工事説明書をご覧ください。

②リモコンを停止にします。
Ⓐフィルターと Ⓑ試運転ボタンを同時に2秒以上押します。
キノウ選択が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下図の表示になります。

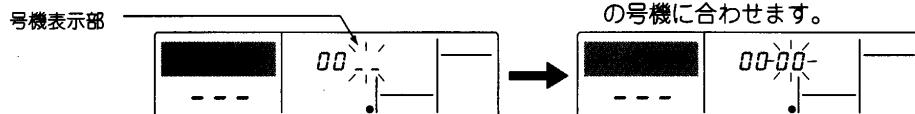
冷媒アドレス表示部

③室外ユニットの冷媒アドレスNo.を合わせます。
Ⓒ [▽] [△]（時刻設定または時間設定）ボタンを押すと冷媒アドレスNo.が00〜15の間で前後するので機能選択したい冷媒アドレスに合わせます。（単一冷媒系では操作不要です。）

※機能選択および室温表示部に「88」を2秒間点滅後、停止状態となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

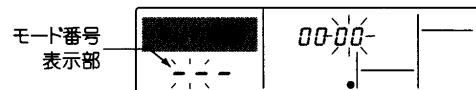
お願い 途中で操作を間違えた場合は、一度⑩にて機能選択を終了し、再度②より操作を行なってください。

④室内ユニットの号機を合わせます。
Ⓓタイマー入切ボタンを押し、号機表示部「−−」を点滅させます。

号機表示部

Ⓒ [▽] [△]（時刻設定または時間設定）ボタンを押すと号機が00→01→02→03→04→ALと変化するので機能選択したい室内ユニットの号機に合わせます。

※モード1〜3を設定する場合は、「00」に合わせてください。
※モード7〜11を設定する場合は、
・各室内ユニットごとに行なう場合は、「01〜04」に合わせてください。
・全室内ユニット一括に行なう場合は、「AL」に合わせてください。

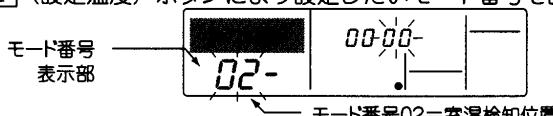
⑤冷媒アドレス、号機の確定
Ⓔ運転切換ボタンを押し、冷媒アドレス、号機を確定します。
しばらくするとモード番号表示部「−−」が点滅します。

モード番号表示部

※室温表示部に「88」が点滅表示する場合、選択した冷媒アドレスがシステム内にありません。
また、号機表示部が「F」となり、冷媒アドレス表示部とともに点滅表示となる場合は、選択した号機が存在しません。②、③にて冷媒アドレス、号機を正しく設定してください。

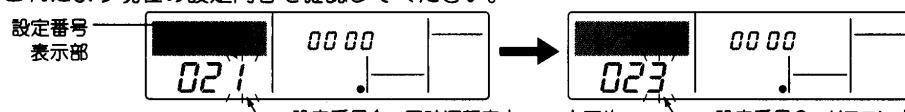
☞ Ⓔ運転切換ボタンにて確定操作をすることにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのか知りたい場合はこれにより確認してください。なお、号機が00、ALの場合は選択した冷媒アドレスの全室内ユニットが送風運転します。

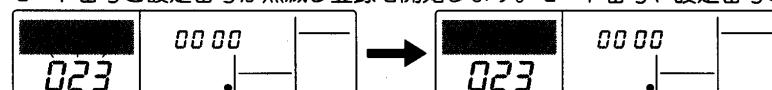
例）冷媒アドレス00、号機＝02確定時の場合

※異冷媒系統でグルーピング時、指定した冷媒アドレス以外の室内ユニットが送風運転する場合、ここで設定した冷媒アドレスの重複が考えられます。
再度、室外ユニットのディップスイッチにて冷媒アドレスの確認をしてください。

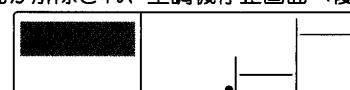
⑥モード番号の選択
Ⓕ [▽] [△]（設定温度）ボタンにより設定したいモード番号を設定します。（設定可能なモード番号のみ選択できます。）

モード番号表示部
モード番号02＝室温検知位置

⑦選択したモードの設定内容を選択します。
Ⓖタイマーメニューボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。

Ⓕ [▽] [△]（設定温度）により設定番号を選択します。

設定番号表示部
設定番号１＝同時運転室内ユニット平均
設定番号３＝リモコン内蔵センサ

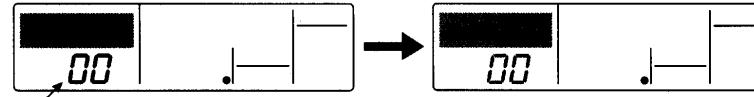
⑧③〜⑦の設定内容を確定させる。
Ⓔ運転切換ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し登録を開始します。モード番号、設定番号の点滅が点灯に変り、設定が完了します。

※モード番号および設定番号が「−−−」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。
伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

⑨更に、他の機能選択を行う場合は、③〜⑧の作業を繰り返し行なってください。

⑩機能選択を終了します。
Ⓐフィルターと Ⓑ試運転ボタンを同時に2秒以上押します。
しばらくすると機能選択画面が解除され、空調機停止画面へ復帰します。

※機能選択終了後、30秒間はリモコンより操作しないでください。

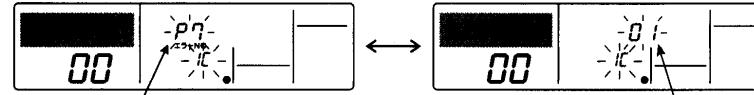
お願い 工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入して確認ください。

7 自己診断

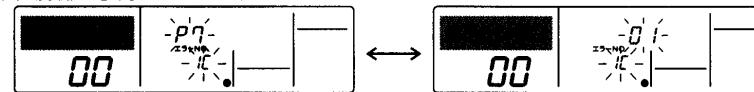
リモコンにて各ユニットの異常履歴を検索します。
①自己診断モードに切換えます。
Ⓗ点検ボタンを3秒以内に2回押すと、下図の表示になります。

自己診断対象アドレスまたは、
自己診断対象冷媒アドレス

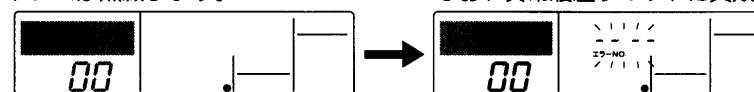
②自己診断したいアドレスまたは、冷媒アドレスNo.を合わせます。
Ⓕ ▽ △（設定温度）ボタンを押すと01～50または、00～15の間で前後するので自己診断したい自己診断対象アドレスNo.または、冷媒アドレスNo.に合わせます。

変更操作してから約3秒後、自己診断冷媒アドレスが点灯から点滅に変わり診断処理を開始します。

③診断結果表示　〈異常履歴がある場合〉
（異常コードの内容は室内ユニットの据付工事説明書またはサービスハンドブックをご覧ください）

異常コード4ケタまたは、2ケタ
アドレス3ケタまたは、号機2ケタ

〈異常履歴がない場合〉
〈相手が存在しない場合〉

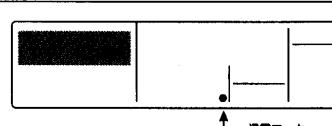
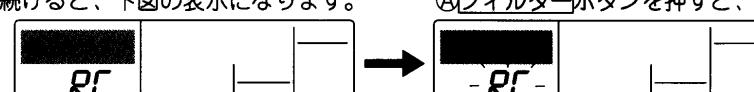
④異常履歴リセット操作
③の診断結果表示画面にて異常履歴を表示させます。

Ⓓタイマー入切ボタンを連続で3秒以内に2度押しすると自己診断対象アドレスまたは、冷媒アドレスが点滅します。

異常履歴がリセットされた場合、下図の表示になります。
なお、異常履歴リセットに失敗した場合は異常内容が再度表示されます。

⑤自己診断の解除
自己診断の解除には次の2通りの方法があります。
Ⓗ点検ボタンを3秒以内に2度押す　→　自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。
Ⓘ運転／停止ボタンを押す　→　自己診断を解除し、室内ユニットが停止となります。
（操作禁止状態時、この操作は無効です。）

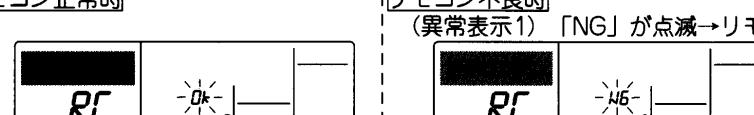
8 リモコン診断

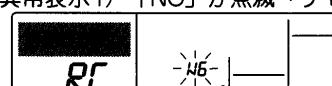
リモコンからの操作がきかない場合、本機能により、リモコン診断を行なってください。

①まずは通電マークを確認してください。
リモコンに正常な電圧（DC12V）が印加されてない場合、通電マークは消灯しています。
通電マークが消えている場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。

通電マーク

②リモコン診断モードに移行
Ⓗ点検ボタンを5秒以上押し続けると、下図の表示になります。

Ⓐフィルターボタンを押すと、リモコンの診断を開始します。

③リモコン診断結果

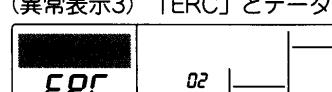
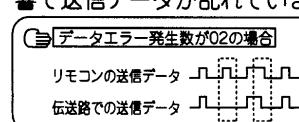
リモコン正常時

リモコンに問題はありませんので他の原因を調査してください。

リモコン不良時
（異常表示1）「NG」が点滅→リモコン送受信回路不良

リモコンの交換が必要です。

リモコン診断したリモコン以外に問題が考えられる場合

（異常表示2）「E3」「6833」「6832」が点滅→送信不可

伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニット、他のリモコンの故障が考えられます。伝送路、他のコントローラを調査してください。

（異常表示3）「ERC」とデータエラー数を表示→データーエラーの発生

データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。伝送路を調査してください。

④リモコン診断の解除
Ⓗ点検ボタンを5秒以上押すと、リモコン診断を解除し、「PLESE WAIT」、運転ランプが点滅し、約30秒後、リモコン診断前の状態に戻ります。

三菱電機株式会社
冷熱システム製作所　〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 ☎(073)436-2111(大代表)